

ここまで、市民の海までのアクセス（パブリックアクセス）の確保や海岸侵食など横須賀港の課題解決の必要性の高い9地区の候補地を利活用への適応性や環境保全・改善の観点から3地区に絞り込みました。しかし、市の財政状況や費用対効果などを考慮すると3カ所全てを整備することは困難と考えられます。

そこで、今後、候補地を1カ所選定する場合、利活用の想定、環境面への効果、防災面での必要性などが重要と考えます。

3候補地については、いずれも様々な利活用が期待でき、また、環境面からの整備の必要性がありますが、現在の国の直轄事業や補助事業の採択の傾向から、特に防災面からの整備についても含めることが不可欠です。

横須賀市にとっても、市民生活の安全性や大規模災害時の必要物資・エネルギーの確保は重要課題と考えられ、これらの課題解決への一助となる整備が望ましいことから、ここでは、3候補地について採択に向けた防災面の必要性を整理しました。

#### ① 追浜地区リサイクルプラザイクル前面海域

- 高潮により浸水の可能性がある区間であり、背後地の発電施設や下水処理施設は浸水すると機能が停止する可能性があることから、市民生活の影響からも高潮対策が必要と考えられる。
- 背後地の発電施設は、民有の石積み護岸崩壊など、護岸老朽化が進んでいる状況から、発災時にも稼働できるよう、護岸も含め強固な施設にすることも検討する必要がある（発電出力約24万kW、8万世帯分\*。横須賀市の世帯数\*\*からすると約2分の1を賄う）。民有護岸、かつ、エネルギー関連施設であることから、民間資本や国費により整備できる可能性がある。
- 護岸の耐震性向上の方策として、横浜港湾空港技術調査事務所にある「潮彩の渚」（国が実験的に整備した施設であり、地方自治体等へモデル事業の提案を行っている）のような護岸整備の可能性も考えられる。



人工干潟を用いた生物共生護岸「潮彩の渚」  
（出典：国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所HP）

\* 世帯消費電力（一般家庭）3kW

\*\* 横須賀市世帯数 165,290世帯（平成25年12月1日現在）

## ② 走水（伊勢町）地区前面海域

- 海岸侵食により護岸の被災や海水浴等の利用に支障が生じているため、緊急の対策が必要である。
- 背後地の走水水源地は歴史的価値があり、現在も市内に水道水を供給していることから、発災時の重要物資である水の供給のため、施設を確実に維持するための対策が喫緊の課題である。

## ③ 久里浜（長瀬）地区前面海域

- 一部の区間では道路護岸まで海が迫り、高波浪時には道路への越波被害が発生しているため、越波への対策が必要である。

いずれの候補地も、防災面における施設整備の必要性があり、特に追浜地区と走水地区の2候補地については、大規模災害時における市民への電力や水の供給拠点となることから、首都圏での大地震の発生確率が高まっている現状を踏まえ、強靱化していくべき場所と考えます。

今後、これら防災面での必要性等も踏まえ、3候補地から優先度の高い候補地を選定し、整備に向けた取り組みを実施していくことが望まれます。